

朴燦鎬さん追悼

山根 俊郎

訃報 昨年（2024年）12月22日ソウルの韓国

大衆音楽研究家の李俊熙（イジュンヒ）さんから「名古屋の朴燦鎬（パクチャンホ）先生が9月25日に亡くなられた」とメールがありました。満81歳。数年前から認知症を患われていました。

謹んでご冥福をお祈りします。

12月24日に李俊熙さんはYOUTUBE（3：23）を作られた。「朴燦鎬」で検索すれば出てきます。

そこから「履歴、写真」を転載します。

バックミュージックに朴燦鎬さんの愛唱歌である白年雪（ペンニョンソル）の『番地のない酒幕』（번지없는주막・1940年）を流しています。



書斎には学生時代に大ファンであった歌手東海林太郎の写真が見える。1943年名古屋で出生。

- 1962年 早稲田大学文学部入学。
- 1964年 在日韓国学生同盟に加入。
- 1966年 早稲田大学文学部卒業。
- 1977年 11月～韓民統の機関紙民族時報に勤務。
- 1978年 1月6日 東京に向かう新幹線の車中で富士山を見て、「韓国歌謡史」の執筆を構想する。
- 1987年 9月30日 「韓国歌謡史 1895-1945」昌文社刊行。1992年 2月25日 韓国で「韓国歌謡史」安東林（アンドンリム）訳、玄岩社刊行。



1988年から朝鮮 SP レコード収集家の斎藤晁司さんより資料提供を受ける。1994年に同氏が亡くなると200枚を譲り受け合計約500枚の「朴燦鎬コレクション」を誇る。現在は李俊熙さんに寄付済。

1996年韓国の音楽雑誌「月刊オーディオ」に4月号から「韓国歌謡史/1945年以後すべての川は海へ流れる」を連載する。1999年12月号まで37回続く。

2005年頃から「大衆歌謡研究会」で活動していたソウル大学大学院生であった李俊熙（1970年生まれ）さんと情報交換をするようになった。

2005年10月朴燦鎬さんが韓国旅行の時に日程が会い、運命的に原州で初めて李俊熙さんと会う。

2006年2月歌手李蘭影の墓所を坡州から木浦に移す催しにも李俊熙さんの誘いで参加した。

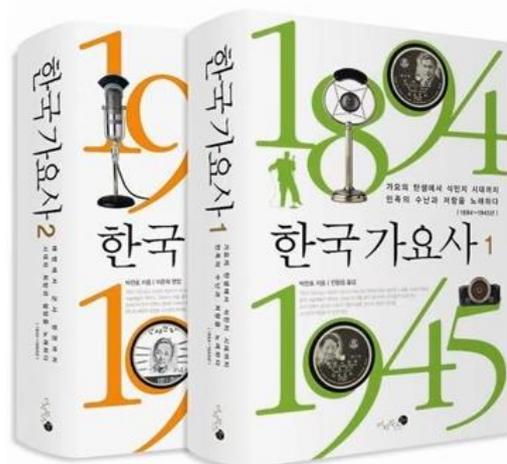
2006年10月31日にソウルの安東林さんから「大手出版社に出版を決めたので「韓国歌謡史 1945-1980」の原稿の催促」があり、慌ててソウルの李俊熙さんに原稿の整理を全面的に委託した。

2008年出版社の担当者が退社する等困難な中でも李俊熙さんが熱心に編集をしてくれた。

【上記の内容は、朴燦鎬著「鬼神のような」『架橋』2008春号 在日朝鮮人作家を読む会から引用しました。】

2009年3月18日 韓国で「韓国歌謡史 1 1894-1945」朴燦鎬著 安東林訳 ミジブックス刊行。

「韓国歌謡史 2 1945-1980」朴燦鎬著 李俊熙編集、ミジブックス刊行。



朴燦鎬さんとの交流

いつもにこにこ笑い、シャイな感じなのに韓国歌謡の研究にはすさまじい。私にとっては先輩研究者である朴燦鎬さんが亡くなられてとても悲しいです。



私が、朴燦鎬さんと知り合ったのは 1980 年代前半からです。1982 年 9 月に私が書いた「日帝下の朝鮮歌謡曲史」『朝鮮 1930 年代研究』むくげの会編 三一書房 を読まれて、手紙をいただきました。

最初は、1984 年 6 月にむくげの会気付でした。「自分も『木浦の涙－韓国民衆の歌と情恨』という本を出版するつもりである。山根さんは『木浦の涙』を 1934 年発表としているが、諸説あるので調べたい」。

多分、この時期に私は、名古屋の朴燦鎬さんの研究室に一度お伺いしたはずです。その時、私は「青丘文庫でレコード新譜発売の新聞広告を探すために『東亜日報』を調べている」と言った！

1985 年 5 月 13 日朴燦鎬さんの手紙では『『東亜日報』創刊号～72 年、75 年～現在まで目を通したが、『木浦の涙』の発売日は分からなかった』とあった。

その後、1985 年 5 月 28 日の葉書では、「最近、一橋大学に『朝鮮日報』が入ったので、先週、調べに行ったら『木浦の涙』＝1935 年 8 月 21 日発売の 9 月新譜。『連絡船は出て行く』＝1937 年 2 月の本社工場新築記念、朝鮮吹込み所設置記念であることが判明した」と大成果を上げられました。

その後も朴燦鎬さんに「むくげ通信」を送り続けましたが、時々歌の感想の返事がありました。

遂に 1987 年 9 月「韓国歌謡史 1985-1945」を昌文社から出版されました。本当に努力の人でした。

1988 年 7 月 23 日 PM 2 時－9 時、神戸学生青年センターで朝鮮史夏期セミナー『いま、韓国歌謡曲がおもしろい－かたり&うたう－』講師：甲南大学教授 滝沢秀樹、韓国歌謡史研究者 朴燦鎬、むくげの会 山根俊郎。講演と歌の楽しい思い出です。

朴燦鎬さんが『番地のない酒幕』をしみじみと歌われたのをよく覚えています。

1999 年 3 月、朴燦鎬さんの紹介で越北作曲家金順男(キムスンナム)の娘さんの金世媛(キムセウォン)さんに会った。(通信 173 号、174 号に記した)

李峻熙さんとも会う



金光宇、李峻熙、藤田、金守良、山根、朴燦鎬

2013 年 8 月 8 日、朴燦鎬さんが中に立ち、歌謡愛好会「有情千里」の総務李峻熙さんと金光宇(キムクァンウ)さんが神戸学生青年センターに藤田昭彦さんの SP レコード「藤田コレクション」を買い取りに来られました。

私は、前日に三宮の居酒屋で酒をおごりました。二人とも酒が強かったです。仲村修さんを助っ人に呼んでいて助かりました。お陰様でその後、毎年「有情千里」特製カレンダーを送ってくれます。

「韓国歌謡史 I, II」日本語版

2015 年夏頃に朴燦鎬さんは、「『韓国歌謡史 1、2』を大幅に加筆訂正して、日本語版を 2016 年春には出版する」と豪語していました。紆余曲折の末に 2018 年 7 月 20 日「韓国歌謡史 I, II」邑楽社刊行されました。



出版記念の集まりは、2018 年 7 月 22 日名古屋 YMCA で開催されました。(別の日に東京でも開催)

朴燦鎬さんは、終始上機嫌でした。

神戸からも飛田さん、大和さん、森崎さん、山根が参加して韓国から李峻熙さんと金光宇さんも参加されました。打ち上げはバス移動して、朴燦鎬さんが経営されている焼肉「長水苑」。大きな店です。奥さんがしっかりしてるから先生は心置きなく研究を続けられたようです。改めてご冥福をお祈りします。